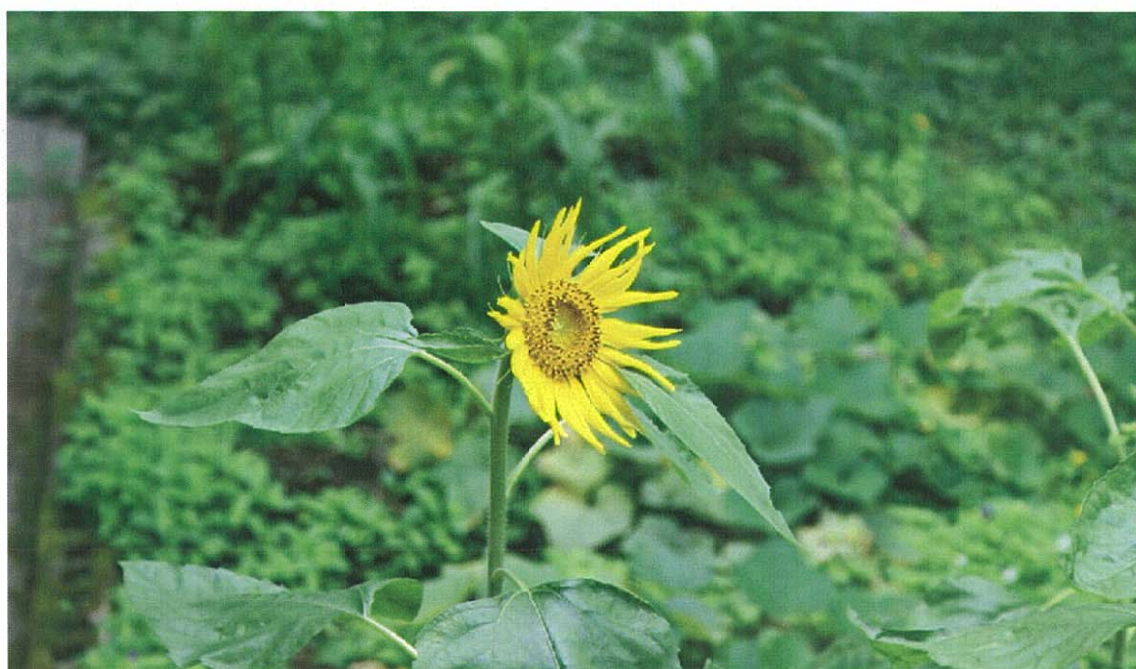


防災教育チャレンジプラン

# 実践資料集



南阿蘇村立久木野中学校



この資料集は、防災教育チャレンジプランの支援を受けて製作しました。



- 1 目的 生徒自らが学校環境の点検を行うことにより、身近な生活における安全管理の能力の向上につなげ、より安全な行動の選択や意志決定を促す。  
また、複数の点検者が確認することにより、危険箇所等の見逃しを防ぐ。
- 2 方法
  - ・毎月10日を安全点検の日とする。(一週間以内の可能な日とする)
  - ・各クラスによる点検と、体育安全委員会による点検とする。
  - ・各学級での点検は毎月、ブリッジタイムを利用する。
  - ・体育安全委員会による点検は6月、8月、10月、12月、2月の5回とする。  
(点検時間は昼休みや放課後とする。8月は月末に実施する。)
- 3 点検者及び場所
  - (1) 体育安全委員会による点検
    - ・点検場所と点検者は委員会で別途計画する。(点検項目については職員の点検とほぼ同じ)
  - (2) 各クラスによる点検
    - ・点検簿は個人カードとし、各自が点検後、各学年部で回収する。
    - ・主に教室内、ベランダ、廊下等を点検し、施設設備点検に加え、個人の防災意識の再確認の項目も設ける。(すべて○をつけるか記述をするかしてチェックをするように)
    - ・点検後は学年でカードを確認し、安全点検担当者に報告(集約)、処置が必要な箇所については職員による点検同様事務部と連携し、修理などの事後措置を行う。(点検集約簿は掲示するなど、生徒に見える形にする)
- 4 点検項目 各教室内、ベランダ及び廊下(進路コーナーや環境コーナー含む)
  - (1) 床板の異常や破損はないか
  - (2) 窓、ドア、鍵の破損、故障はないか、開け閉めは正常に出来るか
  - (3) 窓下に足掛かりになるものはないか
  - (4) ドアの開閉にじゃまになるものは置いてないか、廊下に避難経路を邪魔する不要なものが置いてないか
  - (5) 掲示板の押しピンの取り残しや、壁の不要な釘など、けがしやすいものが教室内や廊下はないか
  - (6) 机いすの破損はないか(落書きなども含む)
  - (7) 棚の整理はできているか
  - (8) 天井や棚からなど、上から落ちてきそうなものはないか、転倒しそうなものはないか
  - (9) 柱やかべに亀裂はないか
  - (10) 非常押しボタンの場所はわかっているか、廊下の非常ベルは正常に作動するか
  - (11) 避難経路A、B、Cはいえるか
  - (12) 消火器は設置してある場所をいえるか(3カ所くらい、なるべく前回と別な場所)
  - (13) AEDの場所、担架の場所はいえるか
  - (14) 校舎平面図に、①「学校内で安全だ」と考えられる場所を青色の○印で記入。  
②学校内で「壊れている」、「危ない」と感じる所、「気になるところ」を赤色の○印で記入し、その様子を具体的に記入する。(運動場なども含む。)

# 安全点検表 ～学校内の点検と、防災意識の自己点検をしよう～

点検日	月 日 ( 曜日 )	年 氏名 ( )
-----	------------	----------

( ) 年教室 及び 廊下 ( 1階教室前 ・ 環境コーナー～家庭科室前)

点検項目	点検結果		気づきなど(具体的に)
	なし	あり	
1 床板の異常や壊れているところはないか	なし	あり	
2 窓のひび割れなどの異常はないか	なし	あり	
3 窓やドアの鍵の異常はないか	なし	あり	
4 窓やドアの開閉はスムーズか	良好	悪い	
5 窓の下に足掛かり(あしがかり)*になる物はないか (*簡単に窓から出入りできる土台になるもの)	なし	あり	
6 ドアの開閉にじゃまになる物は置いてないか	なし	あり	
7 廊下に避難経路のじゃまになる物が置いてないか	なし	あり	
8 掲示板の押しピンの取り残しや、壁の不要な釘など、けがしやすいものが教室内や廊下にあるか	なし	あり	
9 教室内の机やいすの破損はないか(落書きなども含む)	なし	あり	
10 棚の整理はできているか	できている	できていない	
11 天井や棚からなど、上から落ちてきそうな物はないか、転倒しそうな物はないか	なし	あり	
12 柱や壁などに亀裂(ひび割れ)はないか	なし	あり	
13 防犯ベルは正常に作動するか	作動する	作動しない	
14 廊下等の防犯ベルの場所はわかっているか	わかっている	わかっていない	
15 教室内の非常押しボタン(カード式)の場所はわかっているか	わかっている	わかっていない	
16 非常口A、B、Cはいえるか(自分で)	いえる (右に書く)	いえない	A ( ) B ( ) C ( )
17 消火器が設置してある場所をいえるか(校内の3カ所: なるべく毎回違うところを書く)	1 ( )		
	2 ( )		
	3 ( )		
18 AEDの場所とたんかの場所はいえるか	いえる (右に書く)	いえない	AED ( ) たんか ( )
19 学校内で、身を守るために「ここは安全だ」と思う場所を、校舎平面図に青色の○印で記入しましょう。運動場なども含みます	校舎平面図に記入する		
20 学校内で、物が壊れていたり、「危険だ」と感じる場所を、校舎平面図に赤色の○印で記入しましょう。○印の場所に様子を具体的に記入しましょう。運動場なども含みます。	校舎平面図に記入する(例参照)		

# 防災週間 消火器発見ウォークラリー

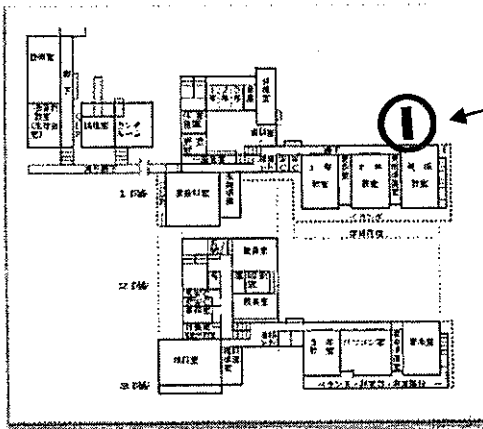
## 1 はじめに

8月30日～9月5日までの一週間、「防災週間」と位置づけられ、常日頃から災害に対する備えを行い、発生時に自分の身を守ることができるなど、防災に対する意識を高めようと呼びかけられているものです。これを機会に自分の身の回りを調べ、いざという時に行動できるよう備えておいてほしいと思います。

## 2 ウォークラリーについて

ウォークラリー形式で校内の消火器を探していきます。消火器には番号がついたカードがついており、そこに防災に関する問題が書いてあります。

○ 消火器を見つけたら、問題カードに書いてある番号を個人カードの地図上に記入します。



○ カードに書いてある問題に答え、個人カードに答えを記入します。

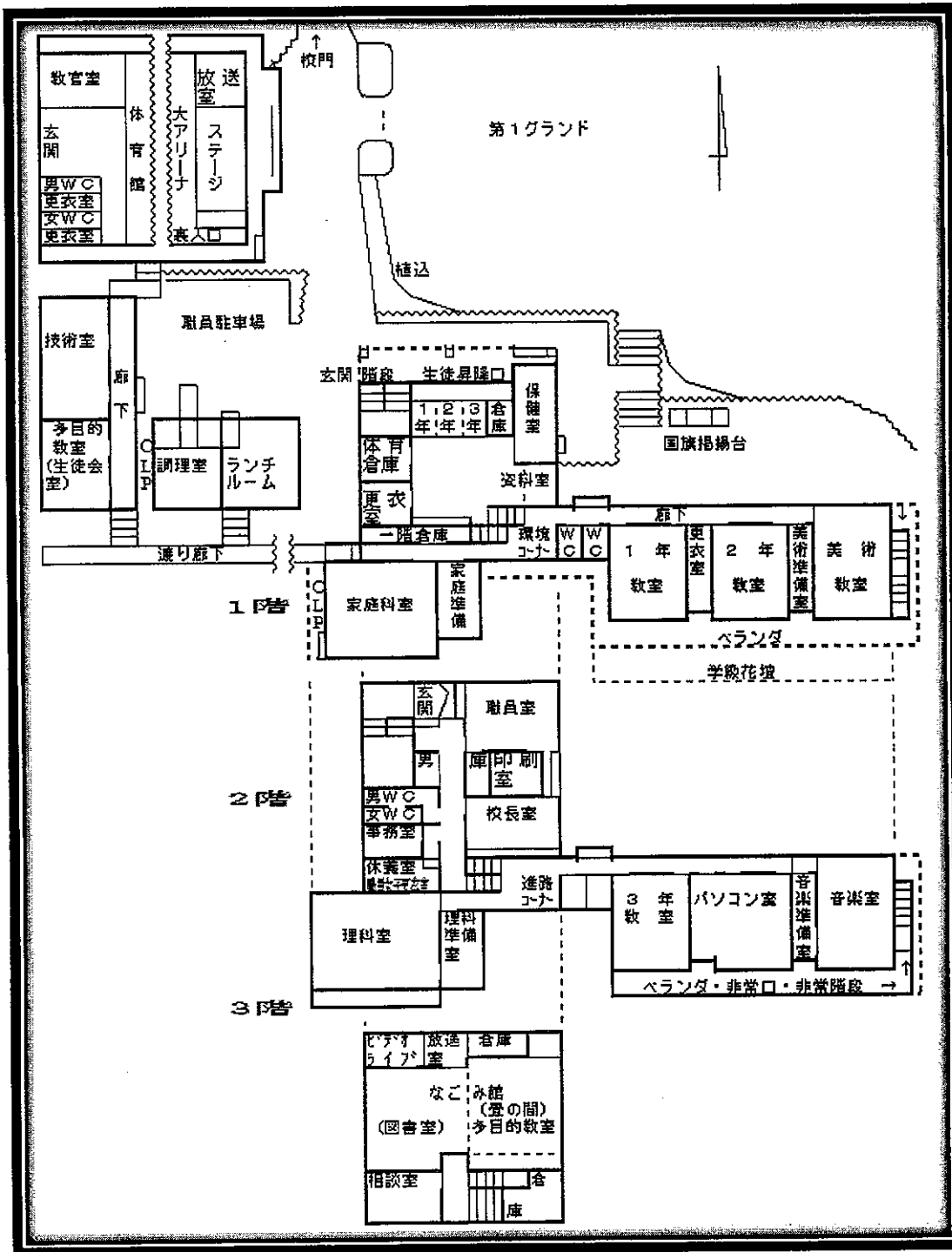
たくさん見つけて、正解すると何かいいことが起こる！かもしれません。

## 3 ルール

- ・活動時間は授業中以外ならどの時間でも構いません。休み時間などを使ってください。
- ・人には見せないでください。個人戦ですので見せ合ったりしないようにしましょう。自分で消火器の場所を確認することに意味があるのです。
- ・危険な場所には立ち入らない。普通危険が伴う場所に消火器は無いはずですから。
- ・消火器のピンは絶対に抜かないこと
- ・期日は9月2日（月）～9月5日（水）までです。
- ・場所によってはカギを開けて入らないといけないところもあるかもしれません。担当の先生の許可を得て入るようにしましょう。




# 防災週間 消火器発見ウォークラリー




【   】年【   】号 氏名【   】






①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮	⑯
⑰	⑱	⑲	⑳

消火器発見ウォークラリー【問題】(一部抜粋)

<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 これは全て地震の時に必要なものですが、大きな地震が起きたとき最も重要なものは何ですか？</p> <p>① 水 ② カンパン ③ 懐中電灯 ④ 携帯ラジオ ⑤ のこぎり ⑥ 医薬品 ⑦ 十円玉 ⑧ スリッパ ⑨ 箸 ⑩ 多機能ナイフ</p>	<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 あなたが家にいるときに大地震が起きた場合、最初に取る行動で正しいのは？</p> <p>①：ドアや窓を開ける ②：ガスの元栓を締める ③：机の下に隠れる</p>	<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 あなたが外にいる時に大地震が起きた場合、一番正しい避難場所は何？</p> <p>①：コンビニエンスストア ②：ガソリンスタンド ③：交番</p>
--	--	---

<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 あなたがスーパーマーケットにいる時、大地震が来た場合にとる行動で正しいのは？</p> <p>①：買物かごをかぶってうずくまる ②：コンクリートの柱の下に避難する ③：非常口から逃げる</p>	<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 家にいる時に大地震が発生し、自分より体重の重い人が倒れて動けなくなっています。さてどうやって運び出しますか？</p> <p>①：毛布で体全体をくんで運ぶ ②：ひもをわきの下に巻いて運ぶ ③：ジャンパーを着せて腰を引っ張って運ぶ</p>	<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 地震発生後、柱に足が挟まれて長時間動かせないで苦しんでいる人がいます。あなたがとるべき行動で正しいのは？</p> <p>①：柱を持ち上げ、助け出す ②：そのまきにして救助隊の到着を待つ ③：挟まれている足をマッサージする</p>
---	---	--

<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 ビニール袋の正しい持ち方は次のうちどれ？</p> <p>①：顔や鼻を被る代わりに使う ②：水を入れて火元に投げつけ、火を消す ③：頭からかぶる火災のときの煙を吸わないようにする</p>	<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 道しい雨が続き水が溢れて道路や床下に冠水し始めました。家族どうって避難することになりましたが正しい行動は？</p> <p>①：車を避けるため道路の端を歩く ②：元気な人を先頭に急ぎ足で歩く ③：高齢者・子どもを真ん中に抱き一列になってゆっくり歩く</p>	<p>防災週間 防災啓発見ウォークラリー</p>  <p>問題 海岸にいる時に暴れを感しました。この時にとるべき正しい行動は？</p> <p>①：海の様子を観察する ②：浮球は監視、浮球監視を聞く ③：すぐに高台や高いビルに避難する</p>
---	--	---

## 緊急地震速報を使った対応訓練（ミニ避難訓練）実施計画

安全教育・安全管理部

- 1 目的 地震災害から身を守るためには、自分の身を守る場所や身を守る方法（体勢）を知り、実践できるようになることがとても重要である。そのためには普段から自分の身の回りの安全な場所を確認するとともに、身を守る訓練をすることが大切である。そこで月1回のミニ避難訓練を実施することで地震災害から身を守る方法を身につけさせたい。
- 2 期日 月1回（生徒には予告なしで行います。）
- 3 方法
  - ① 担任は教室に、副担任は廊下で観察
  - ② 休み時間に緊急地震速報の報知音を鳴らす。（揺れる音も含めて1分程度）  
近くに居る先生は、  
「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所で身を守ってください。」  
「机の脚はしっかり握っておきます。」  
と指示を出す。
  - ③ 生徒は近くの机の下に隠れる。または、非構造物から離れ、構造物の近くで身を守る体勢を取る。  
廊下など身を隠す場所が無い場合は廊下においてあるヘルメットを着用する。
  - ④ 先生方はどのようにして身を守っていたか、観察 or ビデオ撮影で確認する。  
（担任は教室、副担任は廊下）
  - ⑤ 教室に戻し、なぜそこで身を守ろうとしたか発表させる。
  - ⑥ 担任がまとめをし、終わる。

### 【確認事項】

- ・地震＝身を守る体制を取ることが基本です。しっかりと身を守る体制、場所なのか確認してください。



# 防災教育を中心とした学校安全計画

## 安全に関する学校の現状等

- 外輪山の内側に位置し、学校付近は土砂災害警戒地域となっている。
- 北には中岳火口があり、地震と連動して噴火の可能性もある。
- 北側校区の境には白川が流れており、大水害のときには氾濫があった。

## 防災教育で身につけさせたい力

- 地域の特性を理解し、自然災害等の知識を習得するとともに、自然の恩恵についての理解も深め、自然と共生する力
- 自分の状況を踏まえて、とるべき行動を的確に判断する力
- 社会の一員として、共助の精神を持ち、自ら進んで貢献できる力

## 学校の防災教育目標 自らの生命を守り、先を見通した判断・行動ができる生徒の育成

### ア 知識、思考・判断

**3学年の目標**  
自分の生命を守るとともに、地域の一員として果たす役割を理解する。

**3学年の目標**  
率先した避難誘導を心がけ、周りの人たちとともに安全な避難行動ができる。

**3学年の目標**  
地域の人々との絆を大切に、豊かな人間関係を築きながら防災を含めた地域活動に積極的に参加する。

### イ 危険予測・行動

**2学年の目標**  
地域の災害特性について知り、先人の災害への備えと思いいて調べ、防災に取り組みようとする。

**2学年の目標**  
学校や地域の災害特性を踏まえた危険予測をし、安全な避難行動ができる。

**2学年の目標**  
地域とのつながりの中で、家庭の中で自分の役割を理解し、責任をもって果たそうとする。

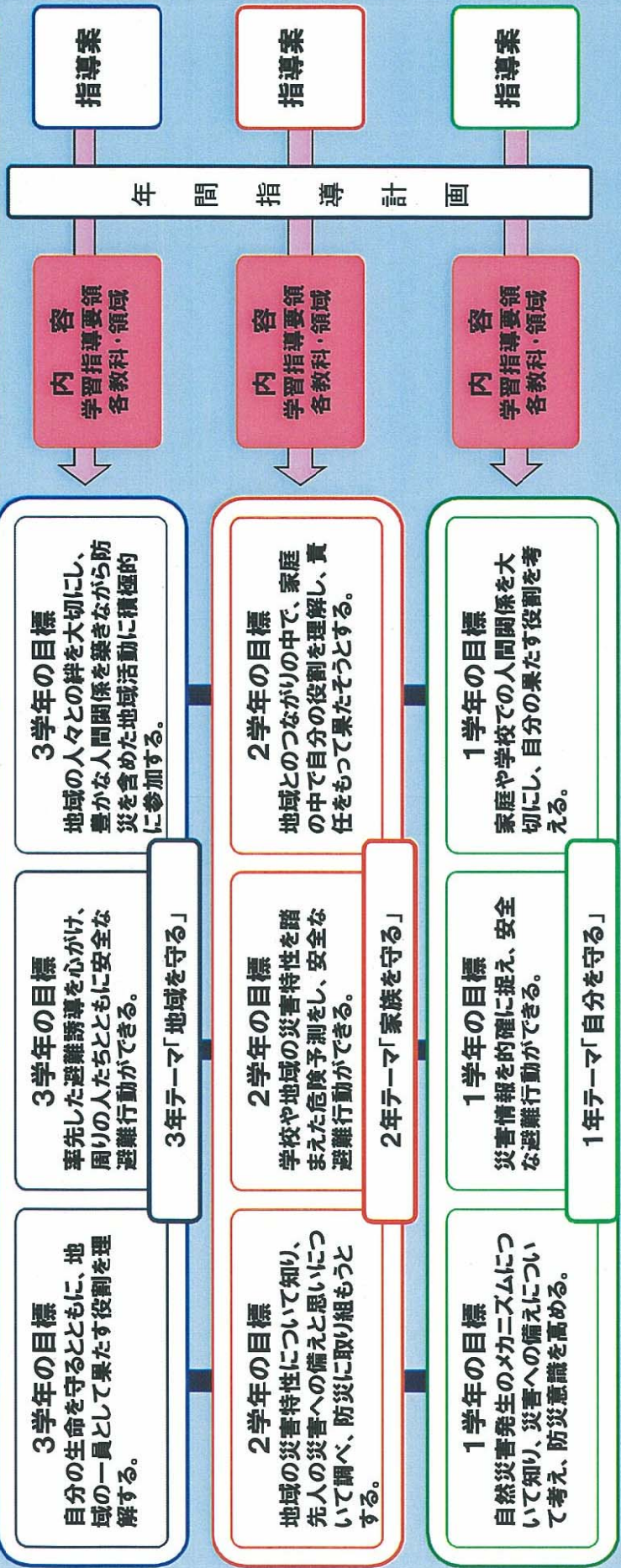
### ウ 社会への貢献

**1学年の目標**  
自然災害発生時のメカニズムについて知り、災害への備えについて考え、防災意識を高める。

**1学年の目標**  
災害情報を的確に捉え、安全な避難行動ができる。

**1学年の目標**  
家庭や学校での人間関係を大切にし、自分の果たす役割を考

- 「生きる力」をはぐくむ学校の安全学校での安全教育から
- 「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」最終報告から
- 「生きる力」を育む防災教育の展開から





学校安全年間計画

※学級活動の欄

◎1単位時間の指導

○短い時間での指導

月		4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3	
月の重点目標		安全な登下校をしよう	小中合同運動会を安全に成功させよう	梅雨の時期を安全に過ごそう	運動時のけがや熱中症を防止しよう	自転車通学の適切な乗り方を再確認しよう	交通法規を理解して守ろう	災害から身を守り、適切な行動をしよう	自ら健康を維持していこう	健康と安全について気をつけよう	事故の原因について学ぼう	安全な生活ができるようにしよう	
安全に関する記念日		4.10 交通事故ゼロを目指す日	5.8 世界赤十字デー	6.1 防災用品点検の日 6.3 雲仙菅賢岳祈りの日 6.5 環境の日 6.26 白川大水害	7.1 国民安全の日 全国安全週間(～7日) 7.11 熊本広域大水害	9.1 防災の日 防災用品点検の日 9.9 救急の日	10.15 助け合いの日	11.5 津波防災の日 11.11 世界平和記念日	12.1 防災用品点検の日 12.10 世界人権デー	1.17 阪神淡路大震災 防災とボランティアの日	2.20 交通事故ゼロを目指す日	3.1 防災用品点検の日 3.7 消防記念日 3.11 東日本大震災	
安全に関する月の重点		交通安全	雷のメカニズム	緊急地震速報	風水害	交通安全	火山災害	生活リズム	風邪とインフルエンザの予防		命と性	復興に向けて	
道徳	1年			花に寄せて (明日をひらく) 【生命尊重】	火の島(明日をひらく) 【自然愛・畏敬の念】	メールで眠れない子どもたち(明日をひらく) 【健康】		百年の生涯(熊本の心) 【人間愛・強い意志・公平】		ハチドリへのひとしずく (明日をひらく) 【自然愛・畏敬の念】	見沼に降る星 (明日をひらく) 【生命尊重】	ふるさとの絆をもう一度 (道徳ドキュメント) 【郷土愛】	
	2年			書かれなかった遺書 (明日をひらく) 【生命尊重】			大観峰に立つ(熊本の心) 【自然への畏敬】		小さなこと (自分を考える) 【健康・節度】	震災の中で (明日をひらく) 【勤労の尊さ、奉仕】	奇跡の一週間 (明日をひらく) 【生命尊重】	心をつなぐ写真 (道徳ドキュメント) 【勤労の尊さ、奉仕】	
	3年		くちびるに歌をもて (明日をひらく) 【生命尊重】	森からの伝言 (明日をひらく) 【自然愛・畏敬の念】		早朝ドリブル (明日をひらく) 【健康】	よみがえれ、日本海 (明日をひらく) 【自然愛・畏敬の念】	碑に込められた願い (熊本の心) 【自然愛・畏敬の念】			あなたはすごい力で生まれ てきた(明日をひらく) 【生命尊重】	大切な場所を守りたい (道徳ドキュメント) 【郷土愛】	
安全学習	理科	理科室の使い方 理科備品の安全な使い方	薬品やガラス器具の使い方 加熱器具の使い方	酸・アルカリの安全な使用	理科室の点検 加熱器具の点検 自由研究	気体の安全な扱い方		光源の安全な利用	安全なコイルの利用	地震と火山活動 マグマの性質	天気の変化と災害	整備点検、薬品点検(台帳管理)	
	美術	美術備品の安全な利用	備品の点検整備	カッターなどの安全な使い方	絵の具・用具の保管、管理	印刷器具の使い方		彫刻刀の安全な使い方	安全な塗装の仕方	小型ナイフの安全な使い方	備品の保管・整備	美術用具の点検	
	体育分野	集団行動様式の徹底 用具の使い方	陸上競技の適切な場所の使い方と測定の方法 備品の点検整備	水泳の事故防止	水泳の事故防止 備品点検	バレーボールにおける適切な用具・場所の使い方	ルール・マナーの徹底 集団行動	剣道における適切な用具・場所の使い方	長距離走における健康状態の把握 器械運動における適切な用具・場所の使い方	バスケットボールにおける適切な用具・場所の使い方	ルールやマナーの徹底、ゲームの安全	器具、用具点検	
	保健分野							心身の発達と心の健康 (1年) 健康と環境(2年)			傷害の防止(2年) 健康な生活と病気の予防 (3年)		
	技術・家庭	ガイダンス 技術室の使い方、安全に作業をするために	丈夫な構造について 備品点検管理	電気事故を防ぐために。 身の回りの電気事故について調べる。	工作加工機械や工具の安全 や点検 備品点検	切削加工時の安全	日常での木製品の利用、工作機械の安全な利用		ガイダンス 家庭科室の使用上の注意	アイロン、ミシンの適切な使い方	調理実習における注意、日常食の調理		器具点検整備、備品点検(台帳管理)
	総合的な学習の時間 (総合A:ASK班活動)	地域の実態調査	テーマ設定	探求学習及び活動			中間報告会	探究学習及び活動、まとめ・発表準備 → 発表			啓発活動		
	他教科		世界から見た日本の姿 (2年 社会)	優しい日本語(2年国語) 魔王(1年音楽)	わたしたちがつくる社会 (3年 社会)							様々な地域の調査 (1年 社会)	
安全指導	学級活動	1年 【自分を守る】	2年 【家族を守る】	3年 【地域を守る】	全学年	毎月1回 緊急地震速報を使った避難訓練を実施							
	生徒会活動	新入生交通指導、自転車点検・安全P、交通安全教室	校区の安全点検活動、小中合同運動会、交通マナーの呼びかけ、自転車点検	交通マナーの呼びかけ、自転車点検	校内安全点検、交通マナーの呼びかけ、自転車点検	防災の日 交通マナーの呼びかけ 自転車点検		交通マナーの呼びかけ、自転車点検	交通マナーの呼びかけ、自転車点検、ストップ点検、灯台当番決め	交通マナーの呼びかけ、自転車点検	交通マナーの呼びかけ、自転車点検	ストップ点検、交通マナーの呼びかけ、自転車点検	ストップ点検、交通マナーの呼びかけ、自転車点検
	学校行事	入学式 歓迎遠足	小中合同運動会	集団宿泊教室(1年) 職場体験(2年) 郡市中体連	1学期終業式 2学期始業式	修学旅行(2年) 郡市中体連陸上大会	郡市中体連駅伝大会、文化祭	都市音楽会 健康安全教育研究発表	ASKマッチ 2学期終業式	3学期始業式			ASKマッチ 卒業式、修了式
	健康・安全に関する 学校行事	健康診断・体力テスト 交通安全運動 交通安全教室		自主防災訓練	交通安全運動 薬物乱用防止教室	交通安全運動	耳鼻科検診	自主防災訓練				性教育講演会	
安全管理	対人管理	通学方法の決定 自転車のきまり	緊急休みの確認	校舎での安全な過ごし方	プールにおける安全管理について、夏期休業中の部活動での安全対策	身体の安全とけが予防について	文化祭準備と安全な電気の使い方、自転車の正しい乗り方と危険防止	文化祭準備と安全な電気の使い方、避難時の約束について	通学路の見直し	凍結・雪道での安全な登下校	施設設備などの安全な使い方について	1年間の反省	
	対物管理	通学路の確認、下校時の確認、安全点検と事後処置、安全マップの作成	諸整備の点検整備、安全点検と事後処置	安全点検と事後処置 臨時安全点検(梅雨時期前) 冷房設備の点検	安全点検と事後処置 冷房設備の点検	安全点検と事後処置	安全点検と事後処置、避難経路の確認、防火設備用具の点検 臨時安全点検	安全点検と事後処置	安全点検と事後措置 暖房設備の点検	安全点検と事後措置 暖房設備の点検	安全点検と事後措置 暖房設備の点検 臨時安全点検	安全点検と事後措置 暖房設備の点検 1年間の反省	
学校安全に関する 組織活動		交通安全運動時の啓発活動 教職員・保護者の街頭活動 学校安全年間計画の見直し・確認	生徒の安全な行動の把握と情報交換 学校安全委員会	地域の危険箇所点検 自主防災訓練 学校安全委員会	校外巡視 研修(心肺蘇生法の実技講習) 危機管理体制による研修	秋の交通安全運動時の啓発活動・登校指導	校内点検	通学路点検 学校安全委員会 自主防災訓練	冬期の通学路点検 年末年始の交通安全運動の啓発	学校保健委員会	地域交通安全集会 学校安全委員会		



# 「いろいろな地域の防災について調べ、 私たちの生活に生かそう！」

南阿蘇村立久木野中学校 ASK1班

## 1 活動内容

私たちは、いろいろな地域の防災や災害について調べ、自分たちの生活にどのように生かしていくのかを考えました。最初に東日本大震災の映像や話を聞き、その後4班に分かれ、それぞれの課題にそって調べ学習や聞き取り調査を行いました。

## 2 活動報告

### ①東日本大震災について

実際に岩手県を訪問した先生の話、映像、写真にふれ、「災害はいつでも起こってもおかしくない」「日頃から災害に備えておく必要がある」と感じました。



被災した家屋

陸前高田市の住宅

流された道路

### A ボランティアの方への聞き取り

宮城県にボランティアに行かれた方に話を聞きました。支援物資の仕分けや遺体捜索、瓦礫の撤去、航空自衛隊松島基地の滑走路の石や流木の除去作業などをされたそうです。半年も経っているのに今まで経験したことのない臭いにとっても驚いたそうですが、この経験を通して『自然災害はいつ起こるかわからないので、しっかりとした備えをしなければいけないことをみんなに伝えなければ』と思われたそうです。

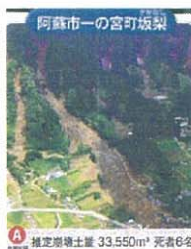
### B 越喜来中学校の先生への聞き取り（陸前高田小学校で被災）

学習を進める中で越喜来中学校の先生に被災直後の話、現状などを伺うことができました。その中に私たちへのメッセージがありました。

『津波でんでんこ』という言葉があります。「津波がきたら、自分の命を守るために、いち早く一人一人（でんでん）が安全な場所に逃げなさい」という先人からの言い伝えです。震災があったら、とにかく自分の命を守ることを第一に行動して下さい。また、震災時にはどこに避難するのか家族と確認しておくことも大切かと思います。普通に生活できることに感謝して、自分の目標や夢に向かって、日々の学習や生活を送ってほしいと願っています。

### ②九州北部豪雨について

平成24年7月11日夜半から降り続いた豪雨により、阿蘇市、南阿蘇村でも土砂崩れが発生しました。未明という時間帯での豪雨ということもあり住民の避難も遅れ、南阿蘇村でも大きな被害を受けました。



（熊本県阿蘇地域振興局土木部/インフレットより）  
『熊本広域大洪水土砂災害備忘録』

推定埋土土量 33,550m<sup>3</sup> 死者6名

### ③九州各県の防災に関する組織と防災に関する予算の比較 A 組織（防災関連組織）

熊本県	福岡県	長崎県	大分県
<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理防災課</li> <li>消防保安課</li> <li>消防学校</li> <li>防災消防航空センター</li> <li>用地対策課・砂防課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災企画課</li> <li>消防防災指導課</li> <li>道路維持課</li> <li>河川課・砂防課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理課</li> <li>消防保安室</li> <li>道路維持課</li> <li>砂防課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災危機管理課</li> <li>防災対策室</li> <li>消防保安室</li> <li>道路保全整備室</li> <li>河川課・砂防課</li> </ul>
佐賀県	沖縄県	宮崎県	鹿児島県
<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理・広報課</li> <li>消防防災課</li> <li>消防学校</li> <li>河川砂防課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基地対策課</li> <li>防災危機管理課</li> <li>消防学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理課</li> <li>農村整備課</li> <li>消防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂防課</li> <li>危機管理防災課</li> <li>原子力安全対策課</li> <li>消防保安課</li> </ul>

### B 防災対策費（南阿蘇村と熊本市）

【一般会計予算に対する割合】

南阿蘇村	熊本市
2億7,803万円 (4.5%)	81億3,599万円 (2.8%)

### ④南阿蘇村の地域の特徴

阿蘇の過去の災害を調べてみると、阿蘇山の噴火（昭和28年4月27日）や水害（昭和28年6.26水害や昭和49年の水害）が起っていたことがわかりました。南阿蘇村は火山の噴火、地震、豪雨、竜巻による災害が起こる可能性があります。たとえば南阿蘇村長陽の藤田地区や立野地区には崖があり、豪雨の場合には土石流や地すべり、崖崩れが起こる危険性があります。



立野地区

### ⑤防災グッズ

私たちは被災地の聞き取りをもとにどのようなものを防災グッズとして準備しておくよいかを考えました。下の写真は実際にある家庭で準備されている防災袋の中身です。



防災グッズ



救急用品

### 3 まとめ

私たちは、これらの学習を通して、次のことを考えました。

- 自分たちの住んでいる地域（久木野）の過去の災害をもっと詳しく知り、安全な場所や危険な場所を把握する。（二次災害も含めて）
- 家族で避難場所を確認しておく。
- 二次災害があることを知り、避難のルートに役立てる。
- 日頃通っている道の危険箇所を確認しておく。
- すぐに避難できるように廊下や玄関、部屋の中を整理しておく。

また私たちは被災地の話を聞き、被災地に何かできないか考えました。そこで、それぞれ家庭にあるもので役立つものを募集し、被災地へ送ることにしました。復興に向けて私たちも微力ながら一緒ががんばっていきたいと思います。



# ASK 2 班

## 「阿蘇火山と私たちの生活」 ～雄大な自然による恵みと災害～

【学習1】 私たちが住んでいる「阿蘇火山」はどのようにして形成されたのか。それによってどのような環境が形成されたのか、調査する。



阿蘇火山の噴火レベルは1～2程度である。南阿蘇村は活動レベルが上がった場合の避難地域に指定されていないことから、噴火が起こっても噴石の心配は考えられないことが分かった。噴火の被害があるとすれば、火山灰の降灰による人的、物的な被害とともに、土石流、作物等の二次的な被害が考えられる。

Qもし、阿蘇火山が形成されるほどの噴火が起こった場合は・・・？

A.阿蘇地域全体が壊滅状態となるため、避難のしようがない。大昔の噴火時は、西は長崎、東は四国あたりまで火砕流が到達したという。

【学習2】 阿蘇火山による恵みとはどんなことがあるのか、先輩方のこれまでの調査から考察する。

温泉・・・マグマの営み 豊富な水資源・・・火山で形成された地質を通して良質の水が手に入る。  
あか牛・・・牛の放牧ー草原の維持ー野焼きー人々の生活ー食・文化・産業 が密接に関連している。

【学習3】 雲仙や桜島など、他の地域で取り組まれている火山災害対策などを調査する。

調査対象：桜島、有珠山、雲仙、浅間山

桜島は緊急時避難地域に人が住んでいるが、阿蘇火山の場合は避難地域に居住地はない。あるのは商業施設のみである。そういったことから、火山災害について私たちは「油断」している面もあることが分かった。また、火山灰も風向きによっては、南阿蘇地域に降らない可能性もあるということで、いざという時の備えができていないこともわかった。

【学習4】 私たちが発信する「火山防災」→火山災害から身を守るためにできること、日頃からの備えなどを調査し、まとめる。

火山災害から身を守るために、情報をどのように集め、判断したらよいか、阿蘇火山博物館学術顧問の須藤先生に「火山情報の利用の仕方」について講話をいただいた。



火山災害規制レベルは、火山性微動が大きくてもレベルを上げることはあまりない。噴出物（火山灰、火山ガス）が多く出た時（人間に影響があるとき）にレベルを上げることになる。災害はそこに人がいるから災害となる。

火山噴火情報など、報道などで知る場合はあくまで「前日」の情報であること。前日の活動を翌日に放送されることを知っておかねばならない。火山性地震など、予防という視点では、よっぽど積極的に自ら情報を集めない、最新の情報を得ることができない。また、どの情報が正しいのか「判断する力」を持っていないと、情報に惑わされてしまうことになってしまう。普段から学習する中で、「正しい判断力」を身につけることが大切である。そのためには普段から防災について学習するとともに、「意識する」ことがとても大切であることを学んだ。





# 私たちから発信する備え

～未来と地域を守るヒーローになろう～

久木野中学校 ASK 3班

## 1 想定される災害

南阿蘇村で、どのような災害が起こるのか考えたことはありますか。最近では、フィリピンを台風が襲い、大きな被害を及ぼしています。温暖化が進む今、今世紀末頃には再びこのような大型台風が襲来する可能性があると言われており、決して遠い国の出来事ではないということをお忘れはいけません。

南阿蘇に起こりうると想定される大きな災害を3つ紹介します。

1つ目は、気象の変化によって引き起こされる災害です。例えば、台風が発生すると、集中豪雨や暴風発生のおそれがあります。大雨の場合、短時間で危険な水位に達し、河川の増水や氾濫、土砂崩れ、家屋の浸水、道路の冠水、土石流、地滑りなどが起こる可能性があります。河川の増水により、4駐在区付近の白川にかかる橋は崩壊したことがあります。注意報や警報のない雨でも災害が起こる可能性があるため注意が必要です。

2つ目は、火山活動によって引き起こされる災害です。例えば、噴火が起こると火口から噴出物が飛散します。火山灰が降り注がれると、人体だけでなく農作物や水質にも影響が出ます。火山泥流が発生すると、土砂により道路や建物、農耕地に大きな被害をもたらします。電気や水道などのライフラインも停止します。久木野は大きなカルデラの中に住んでいるということをお忘れはいけません。

3つ目は、地震によって引き起こされる災害です。東日本大震災は、東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波及びその後の余震により引き起こされた大規模地震災害でした。私たちの生活を支えている行政機能が失われます。そのときには、やはり、自分の力に頼るしかないのだと思います。

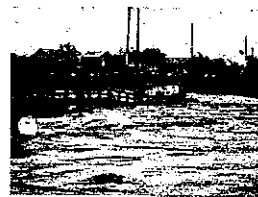
## 2 峯さんへのインタビュー(6.26 白川大水害)

「今は恵まれているから…」

この言葉に考えさせられました。今は、昔より道路や川がきれいに整備され、いざというときにでも便利なものがあふれています。しかし、その反面災害に対しての意識が薄れてきているのではないのでしょうか。



私たちは、自分の身にいつふりかかるかわからない災害に対し、もっと高い意識をもって生活していくべきだと思います。



## 3 井川さんのインタビュー(7.12 熊本広域大水害)

「恐怖心はなかったが、一瞬のことで頭が真っ白になった。」「雨が降ると当時を思い出してしまう。」災害を実際に体験したからこそ言える言葉だと思いました。

「皆さんは自分たちの命、そして家族やお年寄りの命も守ってほしい。」この言葉をしっかりと受け止め、自分そして家族の命も守れる人になれるようこれからも災害についてしっかりと学んでいきたいです。また、学んで終わるのではなく、後世に伝えるまでが私たちの役割ということをお忘れずに生活していきたいです。

## 4 わたしたちにできること

『減災』という言葉を知っていますか？

地震、津波、風水害、火山噴火などの大きな災害に対し、災害を防ぐのではなく、被害がでることを前提にして、被害をできるだけ少なく抑えるということです。平成7年の阪神淡路大震災や平成23年の東日本大震災の教訓からも、被害を完全にゼロとするのは難しいけれど、小さくとどめることは可能で、そのための常日頃の備えや取り組みこそが重要であると考えられています。

『減災』のためには、『自助』『公助』『共助』という3つのことが大切だと言われています。

『自助』とは、自分の命は自分で守ることです。災害はいつでもどこで起こるかわかりません。まずは、自分の身は自分で守ることが重要です。

『共助』とは自分の安全が確保された後、周りの方と助け合うことです。阪神淡路大震災の時も、倒れた家や建物の下から救助された全体の4分の3は、地域住民の方々から助け出されたといわれています。日頃から、近所の方たちと交流しておくことが大切です。

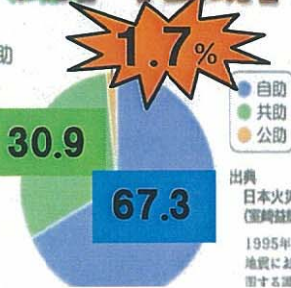
『公助』とは、市役所や警察、消防などによる公的な支援のことです。発生直後の被災地域では、様々な混乱が予想され、すぐに救援が得られないことがあります。しかし、自助や共助ではできない大きな救助をする大切な役割を担います。



## 減災を目指す三つの柱 『自助』『共助』『公助』

図：生き埋めや閉じこめられた際の救助

誰が	%	自助・共助・公助
自力で	34.9%	自助
家族で	31.9%	
友人・隣人に	28.1%	共助
通行人に	2.6%	
救助隊に	1.7%	公助
その他	0.9%	



出典  
日本火災学会  
（消防総務部）  
1995年兵庫県南  
地域における火災  
に関する調査報告書

みなさんは『自助』『共助』『公助』の中で一番救助率が高いのはどれだと思いますか。

実は『公助』はわずか1.7%しかなく、「自助」が67.3%、『共助』が30.9%と、ほとんどを占めています。つまり、いざというときは公助の助けをあてにするだけでなく、自分の命は自分で守る、そして、仲間同士で助け合うことが大切なのです。家庭内での『自助』や地域の『共助』をしっかりと確認し、備えておくことが、大災害からの早期復興・復旧にもつながっていくのではないのでしょうか。

## 災害への備え できていますか？

### 非常時に持ち出す準備

電気、水道、ガスが使えなくなっても、生活ができるよう準備しておきましょう。

#### 最低3日分の飲料・食糧を準備

飲料水は一人一日3リットル、3日分は必要です。食糧は、火を使わずに食べられるものがよいでしょう。※水は、背負って歩ける重さにとどめましょう。

**乾電池** 電池で動くものはたくさんあります。そのため、充電器も電池で充電できるものが多くあります。そのため乾電池は必需品です。

#### ビニール袋

トイレや防寒具になります。

#### 簡易トイレ

防災センターで、実際に座ってみました。とても頑丈です。

避難所でのトイレの数は限られていることや、夜暗い中でトイレに行くのは困難なので、とても役立つそうです。

※これら以外にも、**貴重品**、**衛生用品**、**医薬品**など必要なものがあります。家庭構成など考えて工夫して下さい。



#### 豆知識

牛乳パックを幅1cmに切って火をつけます。ろうがぬられているので燃えやすく、約2時間もちます。



### KY(危険予知)活動

KY活動とは、常日頃から災害に対して危険予知をするということです。私たちは自然に生かされていることを忘れず、雨や地震などによる被害も想定しながら生活していきましょう。

#### 【3班で考えた例】

- ・「避難して」と言われる前に自主的に行動する。
- ・災害に対する情報を日常的に取り入れる。
- ・災害を決して他人事にせず受け止め、考える。
- ・避難準備を日頃から行っておく。など…

### 家族で話し合い

いくつかのケースを考えて、日頃から話し合いをしておきましょう。

#### 【3班で家庭での例】

- ・集合場所の確認
- ・非常食の準備
- ・月1回懐中電灯の点検
- ・卓上コンロのガスボンベの準備
- ・災害用伝言ダイヤルの確認



171

### 協力体制

地域の行事、防災訓練に参加し、日頃から地域の方との協力体制を築いておきましょう。

## 自分の命は自分で守る

危険を感じたら、すぐに、危険を避ける・逃げる  
日頃から災害に対する備えや準備をしておくこと

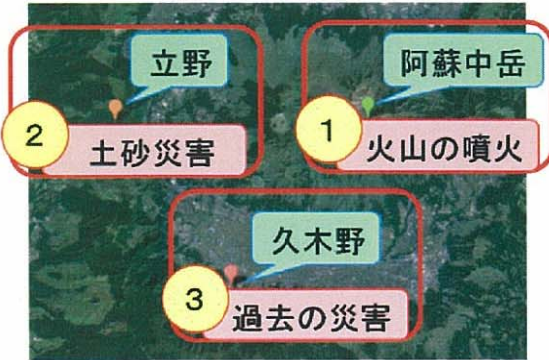


# 「災害と地形・地質の関係を解明し、 私たちの生活を守る知恵にしよう！」

南阿蘇村立久木野中学校 ASK4班

## 1 活動内容

私たちは、災害と地形・地質の関係を解明するために、次の3つの地域でそれぞれの課題をもとに、調査活動を行いました。



## 2 活動報告

### ① 阿蘇中岳

阿蘇火山博物館学芸員、渡邊一徳先生に話を聞きました。その中で、『地震は予測できないが、火山の噴火は予測できること』『正しい知識と備えが防災・減災につながることを学びました。』



### ② 立野

#### A 後藤さんの取り組みから

立野地区には「くえた山」「高やしき」と呼ばれる場所があります。そこで『16人墓』と呼ばれる古いお墓を代々守り続けている後藤さんに話を聞きました。立野地区には、災害を風化させず、教訓を後世に伝えようとする先人の思いと、それを受け継いできた住民の思いがありました。



#### B 久保田さんの取り組みから

立野地区の山を自主的に調査し、土砂災害の危険性を地域や行政に呼びかけている久保田さんに話を聞きました。『自分たちの命は自分たちで守ること』『地域の強い絆が防災につながることを知りました。』



### C 立野の地質調査

立野ダム建設現場を訪れ、立野の地質について国土交通省の松本さんに話を聞きました。立野は柱状節理と呼ばれる岩盤でできていること、地すべりの仕組み、立野ダム建設の目的などを知りました。



### ③ 久木野

昭和63年に起きた集中豪雨による災害について、南阿蘇村教育長、藤岡孝輔さんに話を聞きました。昭和63年5月3日は午後から滝のような大雨でした。午後11時からの2時間で132ミリという驚異的な雨量を観測した久木野では、河川が氾濫し、農具が流され、床上浸水や田畑の崩壊などの被害がありました。



この災害がきっかけで、久木野の農地が整備され、河川の氾濫を防ぐための整備も行われました。『過去の災害の教訓が活かされて、今の私たちの生活があること』『自分の地域のことをもっと知る必要があること』を学びました。

## 3 まとめ

私たちは、各地域での学習を通して、私たちの生活を守るためには、次の3つのことが必要だと考えました。

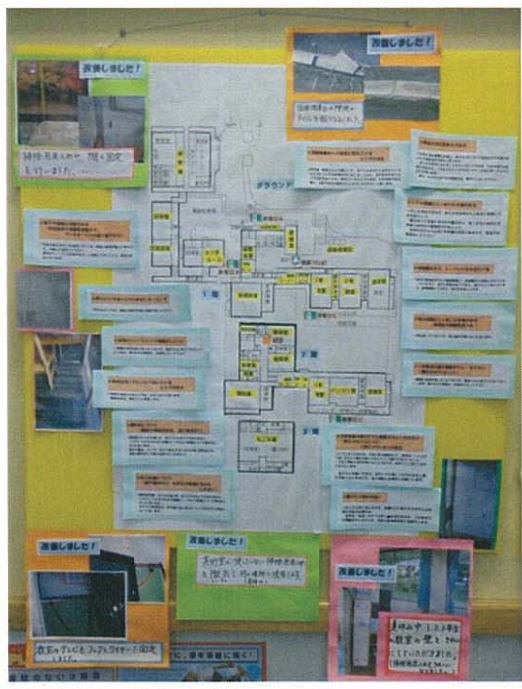
- ①自分たちの地域は自分たちで守ること。
- ②地域の山、土地、災害の歴史など、もっと自分の地域を知ること。
- ③正しい知識をもち、備えておくこと

地域には、私たちが知らない過去の教訓がたくさんあります。それをきちんと受け継ぎ、広げていくことが防災への第一歩です。そのためにも、地域とつながり、大切に、地域の絆を私たちから深めていきたいと思いました。





校内掲示物



生徒による安全点検をもとにして作製した「安全点検のまとめ」



図書の「防災コーナー」



災害の教訓を地域から学ぶ



安全教育計画の月重点事項を参考にした掲示

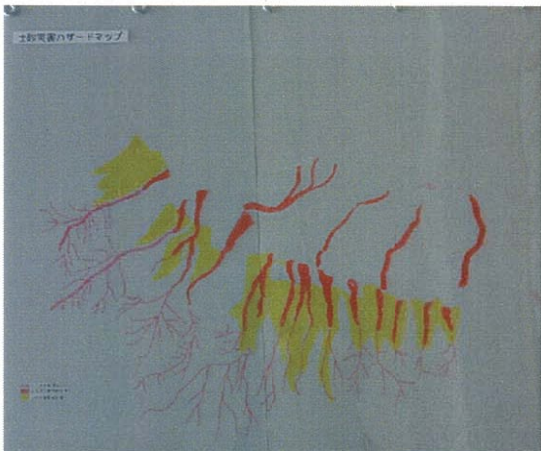
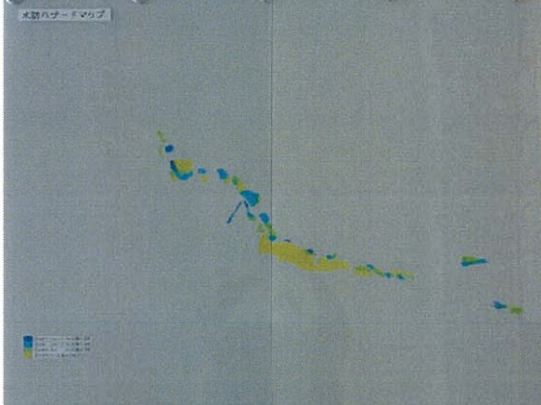



教科と防災との関連



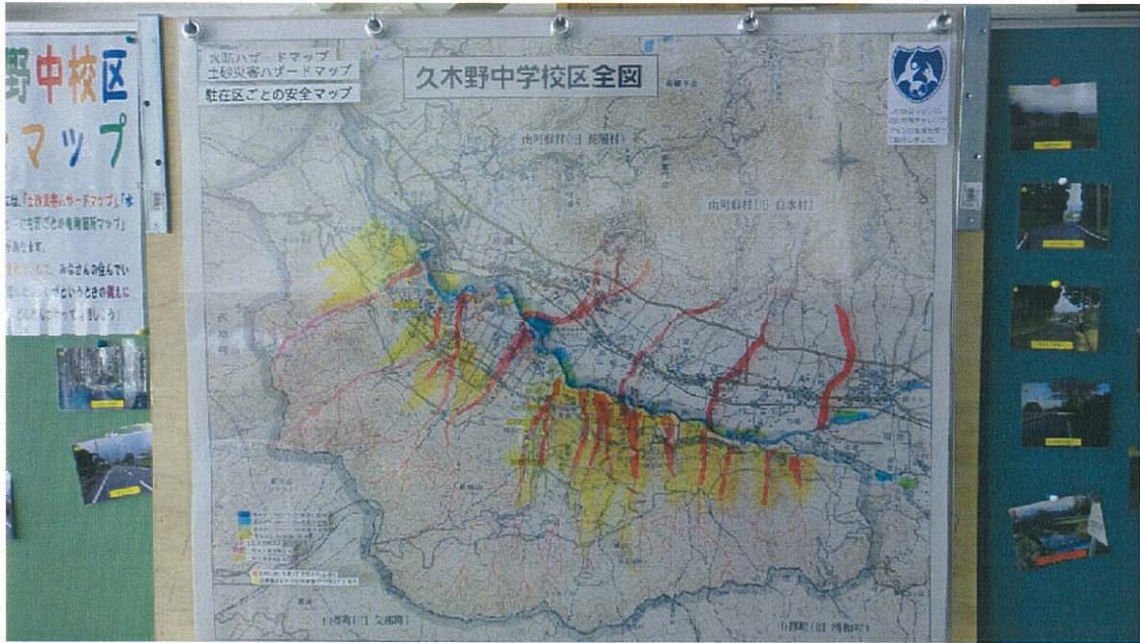


成果物【久木野中学校校区内安全マップ】

	<p>土砂災害ハザードマップ 南阿蘇村土砂流出区域図を参考に、土砂災害時の危険箇所を「レッドゾーン」「イエローゾーン」に色分けして表示した。</p>
	<p>水防ハザードマップ 南阿蘇村水防ハザードマップを参考に、浸水域を色分けして表示した。</p>
	<p>本校校区では、新学期が始まる直前の春休みに、駐在区ごとに小中学生が集まる会合がある。その会の中で、小中学生に自分の住んでいる地域の中の危険箇所について話し合いを行わせ、地図に記入した。主に交通事故、災害時の通学路の危険箇所について表示した。</p>

それぞれを透明シートに表し、1つのマップで3つの視点から見ることのできる安全マップを作製した。





危険箇所の紹介

